

サギ太くん捕獲大作戦



医療法人社団)涼風会 佐藤脳神経外科
佐藤 透

生きとし生けるもの、生きるが為には、他の命を召さねばならぬ。喰われるがために生



きているものもあろうし、生き延びるが使命を背負ったものもいよう。いろいろな生き物が共生するこの自然界の営み、その中のひとつに、ひとが生きる糧があるやも知れん。今はただ生きるのみ、生きるを止めた後、天界・人間界・修羅界・畜生界・餓鬼界・地獄界の六道を輪廻・転生する頃には、やがて生きた理由が分かるであろうか。だいそれた前置きはさておいて、今回は、水庭池をめぐる大事件、サギ太くん捕獲大作戦の一部始終を実況中継致します。



その1: サギ太くん水池にあらわる

あれは、2008年12月は晦日の30日。居間で昼食を終えた、昼下がりの中空のひと時、なんだか水庭が騒がしい。葦簾(よしず)で覆った池から、ぱしゃぱしゃと跳ねる水音、いつもにない不審な響きが届いた。この時期だから水温は低く、池の住人・愛鯉のみみなさんは、のんびりこっくりお休みのはずなんだけど、どないしてまんねん、ちょっと様子を伺ってみよう。葦の覆いをぱつと剥ぐった途端に、飛び散る水しぶき、水面に白波が走った。



誰かおるんかいな、だあれじゃい。ややあ、何だこやつ。水庭池の隅っこ、なんとそこには、置物の壺のようなあのサギ太くん、鎮座しておられるじゃないか。いつの間どこから、この池の中まで侵入して来たんじゃろ。ってことは、ふむふむ、葦の覆いと池淵のあの隙間が怪しいなあ。



お遊びにおいでなすったんかい、ほならん、いらっしやい、てなわきやねえよな。こりやあ、愛しい愛し

い愛鯉を、またまたパクリに来やがったな。味をしめて、またぞろおいでなすったか。自然のものは正直だから、餌でもなければ、寄り付かないよね。こやつめえ〜けしからん、シッシシあっちけえ、ぼおたらんとけん。

ふと傍らを見ると、頭をかじられたコメット金魚と紅白の当歳錦鯉が、おそろでプカプカ浮



いてる。むむムム、てめ〜こんにやろめえ。今度こそ、こいつお〜捕まえたる。剥製にしたるか、そいとも捨札たてて、獄門磔晒し首(ごくもん・はりつけ・さらしくび)の刑にしたらんとけん。このまんまじゃオイラの気がすまねえずら。今こいつを取逃がしたら、向こう三年、夢見が悪いじゃろな。とりあえず、逃げ道を塞いでおこう。納屋から取りおきの長網を引っ張り出してきて、葦簾の側面を広く覆って、池淵とのわずかな隙間を埋めた。

その2:盗人サギ太くん愛鯉をたいらげる



ほんの3日前、2008年12月27日のこと。霜でなかば固まった芝庭にサギ太が降り立った。たまにある冬の朝の光景。いやあサギ太くんこの頃お元気かい?、白い帽子に黒い瞳、濃紺の眉班と翼角のワッペン、白い体に銀色の風切羽、後ろに垂らすは黒ひもの冠羽(かんう)、なかなかいなせじゃん。凜として立つお姿は実にご立派、じつとしてこちらを伺っていなさる。



ほんにお寒いのにご苦労ちゃん。ほほ〜、きょうびは、どちらまでお忍びなさるんかいな。はは〜ん、水庭はぜ〜んぶ葦簾で覆ってあるんよ、残念でしたあまた来年〜。



あれえ〜ほいほいと簾に乗って、ぬきあし・さしあし・しのびあし♪。ひょつとして、サギ太くん何やら狙ってるのかも。不穏な動きに、朝飯の手を休めて、何しとんじゃろ、まさかあ〜、白昼堂々とオイラの目の前で、盗人しようってわけじゃねえよな。げげっ、あそこらへんは、飼い犬狒子のお昼寝のショバ。葦簾の上でじゃれて遊ぶもんだから、簾がたわんで空いとるう〜、うう〜んやばい、こりやあぶにやあ〜かも。

その瞬間に、簾と簾のわずかな隙間から、S字の首を一直線に伸ばして水面に突進、くちばしを開い



たままで戻る。ぎよへえ〜、でっかい魚をくわえてる〜。まさに瞬間芸、驚き・桃の木・山椒の木♪、あたりき・しゃりきよ・くるまひき♪。こいつ、ひれなが黄金錦鯉、超レアもんの秘蔵っ子“かぐや姫の姫子ちゃん”、明け3歳になろうかっちゅう50cmもんやねん。

ガラスを叩く音に慌てて、サギ太はすぐさま庭の隅っこに移動なされた。こんな重量物をくわえてもフラフラもせず、獲物はシッカと離さず、さすがに飛び立てない。でもこのままじゃあお口に入りません。



あれあれ、くちばしに載せたまま、銕み直してやがる。暴れる鯉のかしらを喉に向けて、首を下に降ろして、また上に揚げて。これを4-5回繰り返して、最後は首をもたげて、ずんずんと頭から錦鯉を丸呑。喉も首もゴムホースよりも軟らかく変形して、ありやあ〜ごっくろゴクゴク飲み込んで、ずんどうな徳利首になってしまった。2-3度くちばしを揃え直して、ゲップゲップして。ヒロボラクダくんよろしく、一本足でバランスとって、ガッツポーズをしてやがる。



な〜るへそ〜、かしらを先頭に喉元に向かわせて、重力・舵力を応用して、ほんに上手いこと飲み込むもんじゃな。おみごと！じゃなかった。コ感心してるどころじゃないデスヨ、怒るところデスネ。こりやあ、りべ

んじ・リベンジ・revenge しちゃらんとけん。

その3: 汗と涙のサギ太くん大捕り物帖

よくもまた盗人に戻って来たもんだ。さあて、葦の簾にびっしり囲まれた水庭空間、とはいえこの広い池の中、いったいどうやって捕まえるのか。棒でひとつき一撃するか、それともタモ網で生け捕りにするか。さっそく野良着に着替えて、手袋・長靴つけて、準備万端、臨戦態勢が完了。



その前に、記念撮影をしておこう。囲われの身のサギ太くんを、パシャパシャ入念にショットしておく。池の端っこを水中歩行するサギ太くん、ささっとな逃げ廻る。こらあいいところじゃけ、そのままじっとしてろい。黄色い白目と大きな黒瞳がこちらをにらみ返す、こんにやろ〜文句あつか。

凜として浮く水鳥と水面に移りこむその鏡像とが



織り成すファンタステックなナイショッ。事情を知らないアイ衣と秋翠の錦鯉お二人さんが、ゆっくりとその傍を回遊する。おいおいおまえらあ、そこはサギ太がおるで、あぶにやあ〜どお。

ちょうどその時、次男が居間にやってきた。おお〜ええとけえきたのう、アシスタントにはもってこいじゃな、すぐさまスカウト。おまえが竹竿でぼうて追い込む、そ

こをとうちんがタモ網で掬い上げるちゅう、サギ太生け捕り大作戦ってどう？

しかし〜、捕まえてどうするん？、サギなべに決まっとるじゃん。逃がした方がええんじゃない？、そうゆうわけにやあいかん、これまでにいっぱいこと盗られとる、この前も姫子がやられたばかりじゃん。かわいそうじゃけえ、逃がしてやったら？ まあ捕まえてからまた考えようや、さあさあそっちから棒で追ってこいよ。おまえ何だかぜんぜん乗り気じゃないな、ちょっと買いもんに行ってくるからって、あつ、トズラこきやがったな、アイツ。

さあて、ひとりでコレを退治するとなると、どうすつかな、思案投げ首。ただ追いかけて廻



しても網では捕まらない、近寄ると嘴でつつかれる、眼でもやられたらお仕舞いじゃから。う〜ん、そうだ水攻め作戦で行こう、作戦変更。奴さん、水を弾く風切羽と雨覆羽の鎧を纏ってはいるけど、この寒さ、ホースで冷水を浴びせて、体全体の体温を下げると、きっと衰弱(水弱)して動けなくなるはず。よしこれでゆこう、決〜めたつと。こゆうことは、学校では教えてもらえない、キラリと光る生活のワル知恵。



さっそく散水ホースを引いてきて、先端銃をジェット水流モードにして、蛇口全開で水圧を最大にして、それいけ水鉄砲。寒風の中、返り水の冷たさ・汚泥の臭さも忘れて、奴さん狙って水柱銃を浴びせること30分、じょじょに逃げ廻るスピードが落ちて、時折ヨタヨタよたってきたすったぜ、そろそろタモ網の出番かな。池の隅に逃げ込んだ敵陣を急襲する。いちどはタモ網を撥ねつけた輩やけど、クワァーの一声、おとなしく網に収まった。やったぜ〜べいべい、思わず漏れる鬨(とき)の声、われニイタカヤマ登れり。



用心に用心を重ねて、タモ網を引き揚げた。ずぶぬれに濡れた、水もしたたる囚(とら)われのサギ太がいる。とその時、う〜うわんわん、ワンワン、見れば、のらくろ同輩、タボチ上等兵が加勢に来てくれた。唯



一の援軍、なんていいやつ、心強しかあ〜味方。あとでドッグフードにササミ混ぜてあげるから、芝海老のおつまみもオマケに分けてやっから、内緒でビールもちよろっとこぼしてやっからな。う〜んやっぱりひとりよりふたり、元気が出るな。



おいタボ、あんまり近寄り過ぎんなよ、眼え突かれるどお〜、ほらほら、むくむくっと首を持ち上げたで、こらこら、あぶにゃあから、あっちいつけ。声をあげて同志に注意を促す。そういえば、地面に降りたキジハトを追いかけ回して、捕まえて弄んで、拳句に敵を殺害した実績があるけど、こちとらはちょっとデカイぜ。

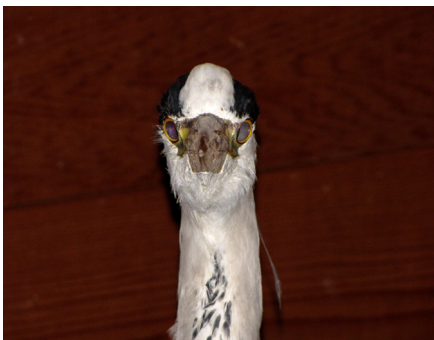
タボチの威勢に怯んで、だんだんと動きが鈍くなる。今がチャンス、すばやく嘴を掴んで、囚われのサギ太をむんずと持ち上げた。首を引っ張ると、あれっこれって案外長く伸びるもんやなあ。では、証拠写真を記念撮影しておこう。唯一無二の戦友、タボチもこちらにおいでよ。ほらほらこっち、カメラを見てごらんよ。カメラよりも獲物が良いって?、おまえさんは根っからの狩人よなあ。

その4: 囚われの身のサギ太くん

これからどないすっかな、命乞いするつぶらな瞳。わる〜ございました、もうしません、お命だけはどうか助けてやってつかあさい、お代官さま〜、って懇願されてるようで。これって、なかなか悪くない気分じゃ。ほなら性根を入替えて、盗人から足洗って、生まれ変わってやってみるっけ?、それなら、足環はめて、タボちとお揃で、うちの番犬・番鳥に採用しようか、てなことにならねえよな。



このまま凍死させるのはよそ〜ぜ。ならダンボール箱に入れて、車庫でゆっくりナチュラルに復温するがよし。空き箱に入れて保温すること2時間、ふたを開けると、そこには蘇ったサギ太がいた。あっ勝手に箱から外に出やがって、どこ行くんじゃい。



こら部屋に入るなよ、飛び上がるなよ、大事な大事なお車に乗っかるなよ、ツツクなよ、ウンチ垂れるなよ、こっちに向かって来んなよ、ってよく言い聞かせておいた。ほならまたまた写真を撮影しておこう。動



くなよ、逃げるなよ、近寄ると逃げる、逃げると追いかける、止まるとパシャパシャばしゃる。車庫の中を鬼ごっこ、車の間を隠れん坊。そろりそろりと移動して、はいこっち向いて、振り向いた面影はこりやまるでダチョウのようだちよう～、それにしても長～い首に長い脚、サギ太くんなかなかご立派じゃん。

ほならしょうがない、そろそろ逃があたりかい、車庫の扉を開ける、とすぐにお待ちかね、タボチ上等兵がやって来た。奴さん、今は正気じゃからあぶにやあ～ど、深追いすんなよ、無二の親友をいたわる。意を汲んだかのように、やんわりとサギ太を追いかけて、扉の方へと誘導してくれた。

外は冷たい冬の雨がぱらぱらと降っていた。ほならもうお帰んなさるか、いろいろなことがあった一日じゃったな、天国と地獄を見たよな。生まれて初めての体験じゃだよ、忸悪かったかな。いやあ～、お疲れ～お疲れさんのサギ太くん。そんじゃね～バイバイ～(^.^)/～～。



その5: その後のサギ太くん

“サギ太の恩返し”ってきつとあるやも。2009年、新年の夜半を迎えて、待てど暮らせど、美しい好青年の来訪はいつこうにない。おかしいなあ～、”道に迷ったので、一晩泊めてほしい“、って来ないなあ～。これって、郵便番号729-0104、田舎に泊まろう～(テレビ東京)じゃないんだけど。せっかく美しい反物がなんぼでも織れるようにと、織機と糸を準備するつもりで、じっと待っているのに。絶対お部屋は覗かないのに、なんのへんてつもありやしねえ。オスのサギを助けたんじゃあ、どうってことにならないってことか。助けるのなら、やっぱりメスの鶴、せめてメスのサギ子に限るやも、う～ん残念。なあんて、しょうもないことを想像する、*imagine*、ひまじん。

お正月明けの7日、いつもの朝、ああつ、来とる来とる～、来てやがる、サギ太くん。今度は屋根の隅っこから遠慮がちに、こちらを斜めに覗いてる。どこ行ってたんじゃい、おまえ？心配しとったんじゃぞい、お元気そうでなによりじゃん。明けましておめでとうさん、生きとし生きるお仲間だよな。それでは今年もまたよろしくにね。(20090721-20090809 記)

